

ケアマネジメント夏期研修会に参加して

高槻市立高槻小学校 小泉麻理子

研修会では、障害者ケアマネジメントの目的や理論にとどまらず、ロールプレイやバズセッション、グループ発表を通して、面接手法やケア計画作成などの作業の実際も学ぶことができ、ケアマネジメントについて理解を深めることができた、充実した四日間でした。

講義の中では、障害者の方々から直接お話を伺うことができ、大変貴重な機会でした。その中で印象的だったのが、障害者ケアマネジメントの視点について、どの方も話の中で「一人の障害者が何を求めているのか、きちんと把握することがとても大切だ」と強調し、切に願っておられていた点です。このことは、ケアマネジメントのプロセスで最も基礎となる重要な視点だとテキストにも資料にも書いてあります。私も話を聞きながら当然のことと納得していたつもりでした。

しかし、ケアマネジメント従事者が障害者からニーズを聞き取る、「アセスメント」を想定したロールプレイで、実際にケアマネジメント従事者役を体験すると、想像していた以上に、面接の中で利用者のニーズを引き出す作業に難しさを覚えました。もちろん、作業には回数を重ねますし、経験や技術もあると思いますが、障害者の立場でニーズを汲み取る作業はなかなかできないものです。《障害者のニーズは実現されやすそうとされにくい。》だからこそ、講義の中で訴えられていたのだと、後になって気づいたのと同時に、話を聞いて実際に体験していなければ、障害者ケアマネジメントの視点をここまで深く考えることはできなかったと思います。

今後は、この新たな視点を大切に、子どもたちに関わっていきたいと思います。

また、将来的には学校でも、障害児にどのような社会資源があるのか情報提供をする場のひとつに進化していく上で、改めて、障害者ケアマネジメントを学ぶ重要性を感じました。

